

乳幼児用製品に関する共通安全対策

乳幼児用製品事故の未然防止に資する規格作成



乳幼児用製品による事故は、「指を挟んだ」、「製品から転落した」など多数報告されている。これまで個別製品ごとに事故防止対策を実施してきたが、多種多様な乳幼児製品に対してすべて安全対策を行うことには限界がある。

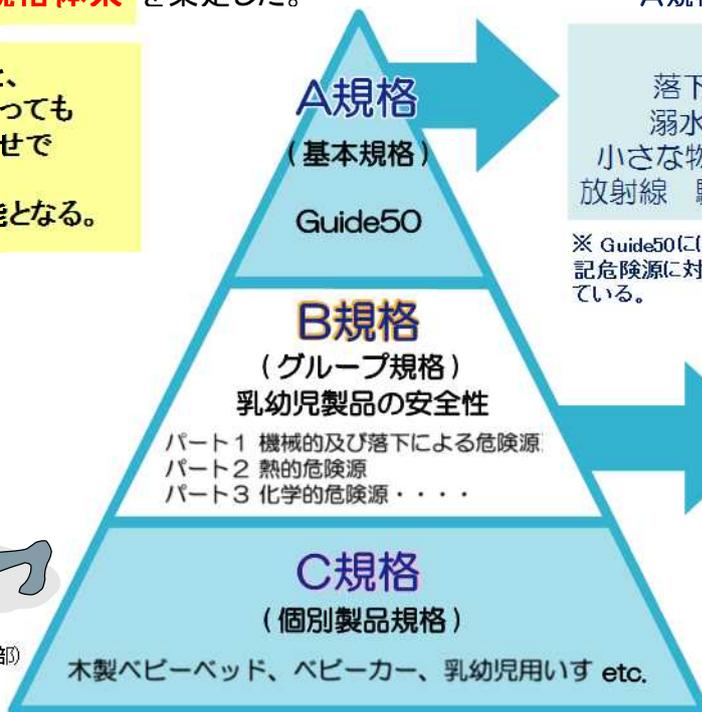
そこでNITEでは、ISO/IEC Guide50(安全側面—規格及びその他の仕様書における子供の安全の指針)を基本規格(A規格)とし、Guide50で規定する危険源について具体的な数値基準・試験方法を定めたグループ規格(B規格)、個別製品規格(C規格)、の3つの階層からなる

乳幼児用製品の安全規格体系 を策定した。

これに従い規格を整備すると、たとえC規格がない製品であってもA規格とB規格との組み合わせで幅広い乳幼児製品に対して安全性を確保することが可能となる。



危険源の例
(機械的及び落下の危険源—隙間・開口部)



【乳幼児用製品の安全規格体系】

A規格に規定されるさまざまな危険源

機械的及び落下
落下及びその他の衝撃による障害
溺水 窒息 首の締め付け 火災
小さな物体及び吸引 熱的 化学的 感電
放射線 騒音 生物学的 爆発及び火炎閃光

※ Guide50には、子どもの特性を考慮した安全配慮への考え方や上記危険源に対する子供の有害事象を最小限にする方策が記載されている。

A規格の危険源に対して
具体的な安全基準や
試験方法を記載した
製品横断的な規格

NITEでは、
このB規格作成に着手



【部品外れ事故一例】

乳幼児用製品共通規格とは？

乳幼児用製品共通規格とは、上記体系のB規格のことである。NITEではとりわけ、下記3項目の危険源による事故が多いことから、これらを優先して規格作成を実施している。

- ① 機械的及び落下の危険源—隙間・開口部—身体挟み込み (223件※)
- ② 機械的及び落下の危険源—構造の安全性—**部品の外れ** (126件※)
- ③ 機械的及び落下の危険源—構造の安全性—製品破損 (113件※)

※ NITE事故情報の乳幼児製品事故720件(2007~2012年)から分析

規格はいつ公開されるの？

現在、乳幼児用製品共通規格「機械的及び落下の危険源—隙間・開口部—身体挟み込み」の規格案をNITEホームページで公開している。また、残りの2つの危険源についても試験方法を順次開発しているところであり、平成28年度初旬にはNITEホームページで公開する予定である。

製品安全センター 標準化業務ホームページ http://www.nite.go.jp/jiko/s_standard/

作成した規格案について、皆様から広くご意見を募集しています。ご意見等は下記メールアドレス宛にお願いします。

E-mail: standard@nite.go.jp

nite・製品安全センター